

**東京大学大学院人文社会系研究科**  
**次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣**  
**帰国報告**

**最終報告提出日**

2010年12月6日

**派遣生の基本情報**

氏名：新田昌英

所属先：人文社会系研究科欧米系文化研究専攻フランス語フランス文学研究室

派遣形態：PD

**研究テーマ**

アランの講義草稿研究

**派遣先での活動**

(1) 派遣先の基本情報

フランス パリ フランス国立図書館

(2) 派遣期間

出発日：2010年9月21日 帰国日：2010年11月22日 総日数：63日

**主な研究成果**

(1) 当初の計画の概要：

フランス国立図書館で哲学者アランの講義草稿を調査することが今回の計画の主目的であった。「感情の哲学」(*Philosophie des sentiments*)と題された草稿（国立図書館草稿部文書番号NAF17706）を閲覧し、これをタイプするとともに、複写することが具体的な作業であった。資料の内容は現在執筆中の博士論文に直接関わるものであり、調査結果を論文に反映することを期待していた。

(2) 実際に達成された成果：

国立図書館の草稿部で草稿の原本にあたり、必要な部分の179ページ分のタイプ原稿を電子ファイルで作成した。手書きの文字は当初解読が容易ではなかったが、慣れるに従って解読の精度が向上した。講義草稿及びその準備ノートのかかなり自由なレイアウトをタイプ原稿で可能なかぎり再現する時間的余裕を持つことができた。国立図書館のカタログではこの資料に1929-31年の年代が付されているが、今回調査した部分の執筆年代は実際には1911年頃であることがわかった。また国立図書館新館に行き、講義草稿に記載されていた心理学の文献の原典を確認することができた他、日本には所蔵がなかったフランス教育省の19世紀の官報を閲覧することができた。調査対象のタイプ原稿を校了後に他の著作の草稿をマイクロフィルムで閲覧し、出版されたバージョンではわからなかった文献学的情報を得ることができたのは追加

の成果であった。

(3) 今後の研究展望：

今回調査した資料の実際の執筆年代が 1911 年頃であることが判明し、同年代に執筆された他の著作（第一哲学に関する書簡集 *Lettres sur la philosophie première*, 道徳論 *Traité de morale*）との関連性が浮上し、実際に内容が符合することがわかった。これらのテキストを相互関係において詳しく分析し、哲学者アランの前期思想の解明に寄与することが期待できる。発表の媒体としてまず現在執筆中の博士論文において講義草稿の分析に 1 章を充てる予定である。またこの資料はこれまでに研究対象になったことがないと思われ、文献学的情報と内容の紹介をフランス語の論文により日本国外の研究コミュニティに還元していきたいと考えている。